

令和4年度 自己点検・自己評価結果 改善現状報告 (令和5年度 自己点検・自己評価 中間報告)

目次

(1)	教育理念・目標.....	1
(2)	学校運営.....	3
(3)	教育活動	
	介護福祉学科.....	4
	作業療法学科.....	6
	理学療法学科.....	8
	看護学科.....	9
	助産学科.....	11
	看護学科通信課程.....	13
	歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）.....	15
(4)	学修成果	
	介護福祉学科.....	17
	作業療法学科.....	18
	理学療法学科.....	19
	看護学科.....	20
	助産学科.....	21
	看護学科通信課程.....	22
	歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）.....	23
(5)	学生支援.....	24
(6)	教育環境.....	25
(7)	学生の受入れ募集.....	26
(8)	財務.....	28
(9)	法令等の遵守.....	29
(10)	社会貢献・地域貢献.....	30

令和4年度改善現状報告書（令和5年度中間報告）作成に際して

1. 評価担当

①教育理念・目的	校長
②学校運営	校長
③教育活動	各学科教務
④学修成果	各学科教務
⑤学生支援	学生サポートセンター
⑥教育環境	総務課
⑦学生の受入れ募集	広報部
⑧財務	経理課
⑨法令等の遵守	総務課
⑩社会貢献・地域貢献	学生サポートセンター

2. 評価数値の意味（令和4年度 自己点検・自己評価）

- 4 … 適切に対応している。
課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
- 3 … ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 … 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1 … 全く対応をしておらず不適切。学校（学科）の方針から見直す必要がある。

(1) 教育理念・目標

令和4年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	学校の理念、目的、育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
2	学校における職業教育の特色は何か（理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか）	4
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4	各学校の教育、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生、保護者等に周知されているか	3
5	各学校の教育目標、育成人材像は、学校等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

- 新型コロナウイルス感染拡大で医療・福祉人の姿、使命感、期待が改めてクローズアップされた。それに応えられる人材育成という原点に立ち返って、きめ細やかな教育を施せる環境、教育体制を法人一体となって確立していく。
- 高校生・社会人に選ばれる専門学校、福祉・医療施設から選ばれる福祉・医療人を輩出する専門学校、地域から期待と信頼の厚い専門学校となることを目指す。

【改善方策等】

- ビジョンプロジェクトにおいて、「チーム力のレベルアップ」「教員の資質の向上」「ブランド価値の再創造」を重点にビジョンの実現に向け学校全体で取り組む。
- 学生の参加意識の向上と学びの成果がより高まり、またそれを自覚できるようにするために「多職種連携教育（IPE）」の内容を充実させる。
- 高等学校、医療関係施設、行政機関等を訪問し、学校へのニーズと要望、諸機関との連携の在り方、社会の趨勢等の把握を図り、絶えず学校の在り方や方向性を見直す。
- 学生・保護者に対し、学校のビジョンや教育方針・運営方針について、機会あるごとに説明し周知に努める。



【令和5年度に行っている取組等】

- ビジョンプロジェクトでは、若手職員によるチームを立ち上げ、様々な面から学校の現状を分析するとともに、中長期的な展望とビジョンを作成している。
- 多職種連携教育はカリキュラムの一部として定着してきているので、より効果的な運営になっていくように、担当職員の共通理解と指導力の向上を図っている。
- 新入生オリエンテーション、MO 後援会、学生や保護者との面談など、あらゆる機会で学校の運営方針やビジョンについて周知・理解に努めている。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

- 多職種連携教育（IPE）の意義について、学生の理解が高まり効果的な指導がされている。
- 現行のビジョンの理解と共有は進んでいるが、ビジョン実現に向けての取り組みは、より加速していく必要がある。

(2) 学校運営

令和4年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
5	教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
7	教育活動等に関する情報公開は適切になされているか	4
8	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

- 学生・保護者・関係施設病院・行政機関等にきめ細やかで誠意ある対応を心がけ、本校への信頼、期待、支援に繋げていくこと。
- 共通でありながら学科毎に個別に行っている事務や情報処理について学校全体での共通化を図り、業務の一層の効率化を図ること。

【改善方策等】

- 職員が意欲をもって働き、能力を高めることができ、働き甲斐のある職場になるように、人事考課制度を実践する。
- 教育力の向上という目的で、教員研修を体系化し、キャリアに応じた研修、学生対応力の向上を目指す研修などを実施する。さらに公開授業や授業研究を強化する。
- 職務、授業などにおける部署間、学科間の職員の交流及び協力体制を構築し、学校が一つになって同じ方向に向かって仕事ができるようにしていく。



【令和5年度に行っている取組等】

- 人事考課制度がより効果的に運用されるように、職員への理解を図るとともに適切な評価を行う。
- 指導力を高めるために新人教員研修・職員研修を充実させている。
- 組織の見直し、適正な職員の配置に努めている。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

- 職員の人事考課制度の意義の理解は深まっている。職員の意欲の向上、学校力・組織力の向上に結び付くことが期待される。
- 新人教員研修、職員研修の内容の充実が図れた。指導力や危機管理能力が高まることが期待される。
- 組織の見直しと職員の適正配置により、円滑な組織の運営、職員間のコミュニケーションの活性化、情報の共有化が進んでいる。

(3) 教育活動 介護福祉学科

令和4年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	2
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

本来求められる介護福祉士としての社会性や倫理性と、実際の学生の特性に乖離が見られ、一方的に学生に指導するだけでは、その場の効果だけあっても、卒業生の早期退職者がいる状況を考えると、長い目で見た成果としては十分ではない。教員自身の先端的な知識も含めた介護の専門性を高めるとともに、現在の学生全般の傾向や個別の特性についても引き続き学習し、さらに知見を深め、指導に活かしていく必要がある。

【改善方策等】

- ・ 目的を明確にした研修の実施および、それを活かした学生指導。
- ・ 学生の特性およびその背景の把握。
- ・ 個別の着地点(目標)の設定と達成に向けた指導。
- ・ 実習時における実習先との連携。



【令和5年度に行っている取組等】

・ 学生指導をする際、原因だけにとらわれることなく、これからの目的等を見据えながら学生指導している。

- ・実習開始前に実習訪問し、学生個人の申し送りを行い、個人ごとの目標値を共有している。
- ・教員自身が、専門分野だけでなく、学生の特性やその対応に関する研修を受講する等の学習をおこなっている。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

- ・昨年度は学生が職員室に立ち寄ることが少なかったが、今年度は学生自ら職員室の教員に声を掛け、学生と教員の関わる時間が増えている。
- ・昨年度までは再実習者がいたが、今年度の再実習者はゼロである。
- ・今後も引き続き、同様の取り組みを行う。

(3) 教育活動 作業療法学科

令和4年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

1 指定規則改正後の新カリキュラムが全在校生に適用されている。中でも大きな変更点である「診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）」に対応するため、臨床実習先の指導者との連携が一番の課題である。同時に「診療参加型臨床実習」「問題解決型授業（PBL）」「科目進行型授業（SBL）」の三つの柱を組み合わせた授業展開を図りつつ、学生個々の臨床基礎力を底上げすることが継続しての課題である。

2 1に対応するため、教員一人ひとりの「教育力」「臨床力」の向上とともに、「診療参加型臨床実習」「問題解決型授業（PBL）」「科目進行型授業（SBL）」についての共通理解をより深化させていくことが課題である。

【改善方策等】

課題1・2に対して

- (1) (一社) 栃木県作業療法士会と連携し、「厚生労働省指定臨床実習指導者講習会」を継続開催し臨床実習指導者とのつながりを密にしていく。
- (2) (1) の継続開催を通して「診療参加型臨床実習」が求める課題をより明確にし、教員一人ひとりと臨床実習指導者、ならびに教育課程編成委員会を始めとする関連分野の関係施設等や業界団体等と具体的に共有する。
- (3) (2) で共有した課題に対して、その解決のための教育方法の工夫（「問題解決型授業（PBL）」「科目進行型授業（SBL）」等々）や教材の開発などをより体系的に進める。
- (4) (3) の課題解決のためのロード・マップを作成し、定期的なミーティング（カリキュラム・ミーティング）を月1回実施する。



【令和5年度に行っている取組等】

- (1) (一社) 栃木県作業療法士会と連携し、「厚生労働省指定臨床実習指導者講習会」を、本年度7/15（土）7/16（日）に実施した（56名の参加）。
- (2) (1) の開催を通して「診療参加型臨床実習」が求める課題をより明確にし、教員一人ひとりと臨床実習指導者、ならびに教育課程編成委員会を始めとする関連分野の関係施設等や業界団体等と具体的に共有することができた。
- (3) 昨年度刷新（指定規則改正後の新カリキュラム対応 [診療参加型臨床実習の手引き]）した臨床実習の使用書類を使用した実習を実施し、修正点や改善点を実習関連施設の意見をもとに再検討している。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

本年度の取り組みを土台とし、教育方法の工夫 [「診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）」「問題解決型授業（PBL）」「科目進行型授業（SBL）」「アクティブラーニング型授業のさらなる導入」等々] や教材開発のための課題を明確にする。そして、上記の教育方法の工夫に加えカリキュラム全体の見直しをしていくために月1回カリキュラムミーティングを実施し、重複している内容や授業内容の再構成のためのロード・マップを作成している。

(3) 教育活動 理学療法学科

令和4年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

リハビリテーション教育評価機構の更新年にあたるため、その準備が必要である。経年劣化等による破損や耐久期限、ソフトウェアの対応などチェックが必要である。

【改善方策等】

備品の状況確認と、必要物品の洗い出しを実施する。



【令和5年度に行っている取組等】

必要物品の確認は実施中であるが、定員変更に伴う追加購入との兼ね合いがあるため、再度見直しをする必要がある。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

現在確認中。追加物品の選定中。
2号館の改修と連動も必要である。

(3) 教育活動 看護学科

令和4年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

- ① 教職員間の情報共有が徐々に確立してきているが、まだ、抜けることもあり統一した指導ができていないこともある。
- ② コロナ禍であったため、コミュニケーション力と看護技術力育成の機会がまだ十分な状態とは言えず、未習熟である。

【改善方策等】

- ① 教職員一人ひとりが、情報を精査する判断能力と、有効に活用する訓練が必要である。
- ② 令和4年度施行の新カリキュラムでは、この課題を解決するための編成に留意し、グループワークや演習の機会を増やしていく。



【令和5年度に行っている取組等】

- ① 個人が情報の優先順位と重要性を熟考し、ミーティング、会議、サイボアズの掲示板で共有化を図っている。その情報から対応を検討し、対処できるようになってきた。
- ② 今年度は対面授業で個人間の交流、グループワーク演習、技術演習が活発にできている。

また、学校行事も再開し、コミュニケーションをとる機会は多くなっている。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

教員が実習指導で不在でも共有ラインや掲示板、学年連絡板で抜けが出なくなってきた。得られた情報を有効活用している。以降も継続していく。

コミュニケーションは同学年友人が多いが、グループ以外とのクラスメートとの交流は少ない。学校行事等で機会を多くしていく。

(3) 教育活動 助産学科

令和4年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

資格取得において2年連続で苦戦している。看護学から助産学への移行が難航し、納得的理解型の学習が定着させられていないためだと分析する。

【改善方策等】

- ①プレ助産学講座の実施。
- ②入学時ガイダンスで学生自身が見通しを立てて戦略的な学び方ができるよう説明。
学生自らが見通しを立て、納得しながら主体的に学ぶ発展した学習を支援する。
- ③国家試験対策の年計の見直し。初回の模擬試験を実習開始前に予定し、意識づけを行う。
- ④実習記録の見直し、実習での知識の活用促進など、従来のやり方を再検討する。



【令和5年度に行っている取組等】

①②④入学時、上記の課題について学生に説明し、学習に臨む構えを意識化。5月中旬まで母性看護学の補習を行い、暗記型から理解型への学修について経験の機会を作ることができた。目的をもった学び方と実習時にも活用できるログの残し方など、段階的に実施。（8コマかけて実施）

③初回模試の実施時期を大幅に前倒して（10月→7月）実施した。

④実習記録については学生の経験、思考を想定し、重複や、記載の目的があいまいになるような項目を見直し、実習開始前に記載要領を説明。実習に行っても初めて戸惑う、という事のないようにした。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

①②により学生自身が自分で学ぶということの軌道は構築できた。良い意味での危機感も抱かせることに成功している。モチベーションを維持できるよう、これから訪れる局面ごとに対応して行く。

③実習開始前であったことから、学生は自分の位置や状況について客観的にとらえられたと感じる。しかし、④にも重なるが、実習を通じて国家試験で問われる視点や知識活用の方向など、前半の実習では十分にアプローチができていたとは言えず、10月以降強化し、実習終了後の国試対策に連結することが必要。

(3) 教育活動 看護学科通信課程

令和4年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	2
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

1. カリキュラムが改正されたため、それに沿った教育を実施し学生に対応していく。
2. 学生は働いているため、1つの科目にて4回の授業を行い学生が授業に参加しやすい体制にて稼働しているが、逆に外に出ている教員が増えることでタイムリーに情報共有ができない。

【改善方策等】

1. 1年生と2年生ではカリキュラムが違うため、教員一人一人がカリキュラムのどこが変更になっているのか把握し学生に不利益にならないような対応をする。
2. 学科でグループラインを作成し情報共有の場とする。前年度同様、朝礼にて学生状況を学年ごとに報告し、情報共有していく。



【令和5年度に行っている取組等】

1. カリキュラム改正に伴った学生対応に対して、再度シラバスおよび学習年計を教員全員で理解を共有し、学生の学習進度に不利益が生じないよう取り組んでいる。
2. 学科教員グループラインを作成し情報共有に努めている。学科朝礼において学生状況、学年状況の

情報共有に努めている。

3. 会場による学科説明会・WEBによる学科説明会・准看護学校への学科説明会などの広報活動を広報と共に実施することにより、新入生獲得を目指している。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

今年度後期や次年度に向けて、各科目のシラバス強化や学習年計の共通理解を実施している。次年度学生の学習進度がよりよいペースで学びが向上するよう努力を続けていく。

また、学外へ学科説明や講義などにて学内不在時に、教員間の情報共有が不足とならないようライン・サイボウズ等活用して理解を進めていく。

(3) 教育活動 歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）

令和4年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	2
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	2
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	3
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	3
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	2
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

学習時間の確保やカリキュラムの組み立て方等、現在社会が求める歯科衛生士像と差異が生じてきている。
また、学科内の教育体制をより強固なものにしていく。

【改善方策等】

関連機関や他校調査をし、ニーズに合わせたカリキュラムの再編成を早急に進めていく。時間数や教育方法等、審議を重ねつつスピーディーに実行していく。
教員が能動的に学ぶ場として、学習会は定例化する。



【令和5年度に行っている取組等】

来年度から開始される審美歯科について、学会のカリキュラムを確認し、本校のカリキュラム（オプション）として年次ごとに取り入れる方法を画策した。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

再編成する事は重要だが、タイミングを見ての実施となる。まずは、オプションとしての変更をかけていく。

学習会の実施が計画的になされていない。今後は細かな計画の立案が必要。

(4) 学修成果 介護福祉学科

令和4年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	2
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

発達障害が疑われる学生や不登校の可能性のある引き続き在籍しており、些細な出来事や欠席の積み重ねが不登校につながる可能性がある。

【改善方策等】

- ・学生の変化に対し、様子を見るのではなく、早期対応（面談等）し、状況確認する。
- ・欠席した場合、その理由を明確にするとともに、その背景も考えながら対応する。
- ・欠席が続いた場合、まずは登校を無理強いすることなく、本人の言い分を聞くことから始める。



【令和5年度に行っている取組等】

- ・学生に対して、一方的に指導するのではなく、学生の話の聞いたり背景を考えたりしながら指導している。
- ・欠席、遅刻の多い学生には、保護者にも規則正しい生活の構築をお願いし、不登校状態にならないように注意を払っている。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

- ・昨年度は退学者2名だったが、今年度はゼロである。
- ・このまま全員卒業見込みである。

(4) 学修成果 作業療法学科

令和4年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

ドロップアウト・リスクの高い学生に対し、複合的な視点からのサポートを行うこと。

【改善方策等】

- (1) 学習面のサポートを重視した支援を、1・2年生の該当学生については特に重点的に行う。
- (2) 心理面のサポートについては、学生の家族をも含め行う。(可能な範囲で経済的側面へのサポートも必要に応じて対応)



【令和5年度に行っている取組等】

- (1) 学習面のサポートを重視した支援を、1・2年生の該当学生については特に重点的に行っている。中でも学習面のサポートの必要な学生に個別指導を学年担当以外の教員が対応している。
- (2) 心理面のサポートについては、学生の家族をも含め行っている(可能な範囲で経済的側面へのサポートも必要に応じて対応)。特に留年学生については、学年担当の定期面談の他に学科長が月1回の面談を実施している。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

本年度前期については、休学者は1名(昨年度より休学)、退学者1名の状況となっている。

(4) 学修成果 理学療法学科

令和4年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	4
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

退学率の減少を目的とした体系的な学生対応が、結果として資格取得率の向上につながるように、各教員の対応やシステムの模索は継続が必要である。

【改善方策等】

時間的労力をかけすぎない対応を検討するため、教育機器等の利用に関する情報収集を実施する。



【令和5年度に行っている取組等】

個別の問題を持つ学生と、包括的な学習課題の取り組みに問題のある学生への対応を分け、対応の時間を確保する。学習の中間地点（後期の開始時や、2年生時）にレディネスに関する体験や教示を検討及び実施中。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

言葉だけでは行動変容に至ることは困難であると実感している。
今後に向け、行動変容に至る習慣化された活動を検討中。
(ユニフォームデイなど)

(4) 学修成果 看護学科

令和4年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	2
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

令和4年度は学業不振、精神的な不安定さからの退学が多かった。年度途中で学業指導や面談、カウンセリングなど対応したが、防ぐことができなかった。特に2年次の学科未修において進路を悩み退学の判断をした学生が多かった。

【改善方策等】

令和5年度に関しては希望者以外3年次までの留年を廃止し、単位未修があれば3年の2回目で履修することとなった。

他、学力向上のために1年・2年の放課後学習を予定している。



【令和5年度に行っている取組等】

今年度は再試験前の朝学習時間を設けているため、単位未修は前年度より少なくなっている。精神的に不安定な学生には早期から担任が面談に入り、フォローしている。又、教員不在時はカウンセラーにつないで相談を受けていただいている。結果、学業不振による退学は1名、精神的な課題による退学者は現在いない。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

基礎学力向上のため、1・2年の放課後学習を取り入れたが、学生の意欲は低く参加者が回数を重ねるたびに減少していった。原因として、必要性の認識不足、アルバイトの優先などが考えられるため、次年度は授業時間内に取り入れることができるように調整していきたい。

(4) 学修成果 助産学科

令和4年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	4
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

資格取得率の改善。

【改善方策等】

入学時からの支援プログラムの再構築。国試対策に係る年間スケジュールの見直し。



【令和5年度に行っている取組等】

(3) 教育活動①②で述べた見直しを実施。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

(3) 教育活動③④のとおり。

(4) 学修成果 看護学科通信課程

令和4年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	資格取得率の向上が図られているか	3
2	退学率の低減が図られているか	4
3	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
4	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

- ①国家試験対策の見直し（早期から計画的に進める）
- ②公式ラインへの学生からの問い合わせに返信が遅れることが多い。

【改善方策等】

- ①ナイトゼミ（19：00～20：00）プラス、デイゼミ（11：00～12：00）にて学生が学べる時間帯をふやすことで早期からの国家試験対策を始める。
- ②既読をした教員は、何らか（担当の教員が不在のため、いつなら連絡できるのか、など）のアクションをおこない学生との信頼関係を壊さないように務める。



【令和5年度に行っている取組等】

1. デイゼミの開催時刻を変更（11：00 開始⇒13：00 開始）とし、学生の勤務状況を考えた上でデイゼミへの参加が増えるように努めた。ナイトゼミ（19：00～20：00）の時間変更は行わない。
デイゼミ・ナイトゼミは自由参加での国試対策ではあるが、毎月1～2回実施日を設けている。学生にも内容については、毎月発行の『虹』により伝達、スクーリング等でも直接参加を呼びかけ国試対策している。
国試対策の2年生には個別ラインや学内での対面指導など活用して強化を図っている。さらに模擬試験の結果等により強化必要な学生には、毎週課題を個別ラインを活用し実施中である。
2. 学生の連絡のメインは公式ライン活用で学生と教員の連絡を図っている。しかし、土日・夜間等にはタイムリーに返信はできないので、その旨を学生には事前説明を図ったうえで、平日（9：00～17：00）は、タイムリーに返信できるよう努めている。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

デイゼミ・ナイトゼミにおいては、回数を重ねるごとに1年生・2年生ともに徐々に参加人数も増えてきている。今後も参加人数の増加を期待する。また行う項目の共通は図っているが、内容については担当者任せなので、よりよいゼミになるよう話し合いを行いゼミの効果を上げていきたいと思う。
国家試験合格率の向上につながるよう努めたい。

(4) 学修成果 歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）

令和4年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	3
2	資格取得率の向上が図られているか	2
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

国家資格取得に関しては、学科全体での対策や姿勢の統一感が不足していた。

退学率に関しては、学生とのコミュニケーションがうまく取れず、学生が抱える悩みや思いを共有できなかったことが原因。

【改善方策等】

学生の個性や学力を把握し、全教員が積極的な関わりを持つことで、国家試験対策を一丸となって行う。

学生にも早い段階で将来を見据えたイメージを描かせ、進路選択に迷いが出た学生には面談を重ね、資格取得に向け支援をする。



【令和5年度に行っている取組等】

早期からの国試対策をしている。低層の学生を中心に個別指導の他、全体に向けても帰校日を利用した課題の実施等を行っている。

2年生にも国試を見据えた課題の実施を行っている。

学生面談はこまめに行っており、コミュニケーションは密に取っていると思う。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

資格取得に向けての強い意識づけを早い段階からすることで、意識改革に繋げている。

また、進路選択に迷う学生には前向きな助言をしている。

(5) 学生支援

令和4年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	進路、就職に関する支援体制は整備されているか	4
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
6	学生の生活環境への支援は行われているか	3
7	保護者と適切に連携しているか	4
8	卒業生への支援体制はあるか	4
9	社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
10	高校、高等専修学校等との連携によるキャリア教育、職業教育の取組が行われているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

入学後の学習へのスムーズな移行、基礎学力不足からの休・退学の防止を目指し、初年次教育を取り入れ基礎学力の向上に取り組んでおり、効果的な支援の方策を講じることが継続した課題である。

【改善方策等】

初年次教育の入学前教育として添削学習や学習セミナー、課題配信を実施し、さらに入学後は期間限定で放課後学習会を実施してきたが、思うような成果につながらないことから、今年度より年間をとおして外部講師による学習会を実施するなど改善しつつ個々に合わせた支援を展開していく。



【令和5年度に行っている取組等】

今年度より、放課後学習会は年間を通して現場経験が長い外部講師に委託して週1回実施している。また、環境美化の一環として学内敷地の木の伐採を行い、学校生活の支援として学生が集える休憩場所へと整えた。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

放課後学習会は予定通り実施しているが、学生の参加率が当初より低下してきており、都度対応しているが成果は上がっておらず、今後実施方策を再考していく。

学生の就職活動に関しては、学生のカリキュラムの変更に伴い学内ガイダンスを大幅に早めて実施するなど適宜改善して支援している。また、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、自粛してきた学内行事や保護者懇親会、外部との連携によるキャリア教育等も再開しており、今後はさらに推進していく。

(6) 教育環境

令和4年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
3	防災に対する体制は整備されているか	4
4	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

長年使用している施設は、場所や状況に合わせて改修・補修の必要があり、改修計画表を随時更新しながら、中長期的にわたって対応していく必要がある。

【改善方策等】

作成した改修計画表を基に、緊急性やコストを鑑みながら改修・補修を進めていくとともに、今後新たに修繕・改修が必要になる箇所は見積書を取り、改修計画表へ随時追記していく。



【令和5年度に行っている取組等】

1号館や3号館の雨漏り防止対策のための塗装工事を行っている。
また、3号館前の芝生のところに、学生が休憩できるスペースを確保した。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

雨漏り防止については、1号館は完了し、雨漏りが無くなり外観が綺麗になった。3号館は、現在工事中である。また、学生の休憩スペースが確保でき、雨天以外は、休み時間等に休憩している姿が見受けられる。

(7) 学生の受入れ募集

令和4年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4
2	学生募集活動は、適切かつ効果的に行われているか	2
3	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
4	学納金は妥当なものとなっているか	4
5	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4
6	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

2. 前年度と比較し、オープンキャンパス参加からの出願率が上がってはいるが、参加者数自体は低調となってしまった為、出願数も良い結果を出せなかった。

【改善方策等】

2. オープンキャンパスの参加者を増やす方策：進学情報サイトを用いた周知活動やSNSでの継続的な投稿を行い、認知度を上げる。その後資料請求者に対しては定期的にDMやメルマガでオープンキャンパス誘致を行う。

オープンキャンパスからの出願を増やす方策：訪問活動やガイダンスで得た情報の共有を徹底し、オープンキャンパスでの個別対応に活かすことで、参加者の満足度を上げる。



【令和5年度に行っている取組等】

- ・インスタグラム投稿件数186件（総投稿件数609件）、フォロワー955
【2023年10月15日現在】
- ・DM 発送：【4月】28日1107件（全日）
【5月】11日303件（歯科）、31日337件（看護）、336件（歯科）
【7月】14日2405件（全日）
【8月】4日357件（看護通信）
【9月】1日483件（看護、リハ）
- ・メルマガ：9月66件
- ・LINE アカウントの作成。相談窓口としての活用の他、7月10日よりメッセージ配信開始。
- ・Web 広告：6月～1月（看護学科通信課程）、8月～11月（看護学科）
- ・情報共有の徹底や今後の施策検討の為に、週1で広報ミーティングを実施。
- ・オープンキャンパスに向けた教員との連携強化や学生交流の為、4月～8月に担当広報部職員が各学科の職員室に在中する「他部署ステイ」を実施。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

- DM や Web 広告は思うように CV（オープンキャンパス参加予約、資料請求）を上げることができなかった。実施方法やタイミングの見直しが必要だと思われる。
- 入試実施後のフォロー訪問を徹底。
- 社会人希望者獲得の為に個別相談会誘致を SNS 等で実施。

(8) 財務

令和4年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
2	予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

学納金の増減が年度によってあるため、財務状況が不安定にならぬよう法人全体で今後の対策を検討していく。

【改善方策等】

学納金収入の安定性継続
経費削減等の継続実施及び検討



【令和5年度に行っている取組等】

例年同様、学納金について学生に合わせた納入方法（分割等）を実施している。
3ヶ月に一度、会計事務所による定期監査を実施している。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

年間を通して資金の流れを調整しながら安定した運営をおこなっている。
次年度に向けた新入生の確保と休退学・除籍等を減らし収入の安定をさせる。

(9) 法令等の遵守

令和4年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
4	自己評価結果を公開しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

- ・近年多くの学科でカリキュラム変更等が続いているため、より円滑に管理するためにその他制度の指定状況も含め、官公庁への登録状況を一度整理する必要がある。
- ・職業実践専門課程の認定条件に学校評価が入っているが、フォローアップ（継続）の見直しが国で予定されており、学校評価の内容も精査される可能性がある。求められる基準で実施できているかどうか確認しておく必要がある。

【改善方策等】

- ・官公庁提出の指定申請書について整理し、制度の指定状況や指定条件等を改めて各学科に文章に残る形で周知する。
- ・学校評価のガイドラインをはじめとした、国が示している基準や予定されている見直しの内容をまとめる。



【令和5年度に行っている取組等】

- ・学科毎に指定を受けている一部諸制度の指定状況の整理、資料を作成し、学内の関係者に配布した。
- ・今年度のフォローアップ内容及び書式の内容について確認した。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

- ・引き続き諸制度について、状況整理、文書作成、学内周知に努める。
- ・フォローアップについては書式の変更が確認されたが、本格的な実施についてはまだ検討段階にあるとのことで、学校評価を含め大きな変更はない。今後も国の動向を見ていくとともに現在の学内での実施内容を管理していく。

(10) 社会貢献・地域貢献

令和4年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献、地域貢献を行っているか	4
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
3	地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

社会貢献・地域貢献およびボランティア活動を法人として積極的に奨励、支援しているがコロナ禍で活動が制限されてしまった。

【改善方策等】

コロナ禍で制限された活動の収束後の取り組みについて実績を把握するとともに、活動の組織的支援に努める。



【令和5年度に行っている取組等】

昨年に引き続き本校発信の「地域住民への健康教育」の実施に向けたプロジェクトにおいて、今年度は担当部署「ヘルスコミュニケーション研究会」として積極的に活動している。
学生ボランティアの依頼は、依然として少ないが徐々に増加しつつあり、法人として積極的に奨励し外部にも働きかけを行っている。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

社会貢献、地域貢献としては、担当部署を設置し積極的に小学校・中学校へキャリア教育の一環として出前講座を行うとともに職場体験学習の受け入れ等も行った。その他、学校全体の学生ボランティア活動としては、4年ぶりに学校祭を開催し収益の一部を災害地域への義援金として送った。
また、継続して積極的に教育訓練の受託を実施している。